

花と緑で色を添える 迫力が出るまちなか

渡會 多久駅周辺のまちづくりについてそれぞれのお考えをどうぞ。

木村 花と緑をメディアとしたまちづくりを10年前からやっています。それは、『お父さんのまちづくり』という都市計画に対する、暮らす人の立場に立った『お母さんのまちづくり』。都市計画のシステムはあっても、お母さんのまちづくりがないねと言われる中、多久では既にその芽が出ていることに感じました。多久は盆地で周りが緑に囲まれて、まちの真ん中に花と緑で色を添えることで他のまちと違ってとても迫力が出るんです。量が半分でも周りの緑がまちなかの花と緑を倍、それ以上に見せてくれる場所

だと感じ、新しくできる所は、町中の縁側の場所になり、訪れた人がホッとするようなまちになるのではないかと思います。

市長 3点感じています。地域性や歴史を大事にしながら多久らしさを発信していくこと、見た目の美と続けていける人の力が素晴らしいと思うゴミの少ない美しいまちづくり、そして、花や木々が育つような発想で、こつこつと着実にまちをみんなで育てていきたいと思えます。まだまだ、変化の姿、みなさんの知恵と力を集めてやる作業の途中なので、今日の議論も含め、まちづくりに生かしたいと思います。

江里口 駅南側で事業をしているので他人事ではない、多久駅に思い出があることでまちづくりに参加しました。高齢化率も30%近くあり、将来を見据

え、中心地は子どもも高齢者も共生し、元気な方々が遊べる場所も必要。また、山犬原川の整備で、親水公園や桜並木ができたらいいなど考えを巡らせています。

真崎 商工会での青年部活動や商売人としてお役に立てないかと思ひ参加しています。子供の頃、多久駅周辺は賑わいがあり、人と出合える場所、一つのステータスでした。賑わいを取り戻せないかと今春、主催者の一人として『元気まつり』を開き、賑わいや楽しみを実感しました。来場者や出店者の「またやって」の声や、一つのまちづくりのきっかけに貢献できたことは嬉しい。いかに喜ばれ、楽しめたかが成功度で、今後自分ができることを続け、色んな組織や行政の協力を受け、活性化につなげたいと思います。

笹川 この10か月前までは、多久に住みながら多久のことは知らずにいて、まちづくりも誰かがやると思っていました。市外の方に「多久の方は、こんなに自然に囲まれ、ホッとできる場所があつて幸せね」と言われ、私自身が考え直し、変わるきっかけになりました。まちづくりは人づくり。多久に住んでいる人がただ批判するだけでは、まちはよくなるらない。まちを散策して、変えようとする想いが、まちの賑わいにつながると思います。駅周辺が多久の情報発信源になり、観光やイベント、暮らしの情報の拠点となる存在であれば必ず人は寄ってきて、人のぬくもりが伝わり、花と緑の空間の中で、季節を身近に感じられる演出や集えるまちにすることで多久らしさを表現できると思います。

●パネルディスカッション テーマ 「これからの時代と多久駅周辺まちづくり」

資源のよさを生かし、工夫を加え、自分たちが楽しむまちづくりが大事

女性の目線を入れた 居心地のいい場所は多久の顔になる

渡會 これからの生活や社会と、まちなかをどう考えますか。

両角 車が発達したことで、外に行けば色んなものがあり、便利で、みんなが外に向いたり、分散した町ができていのではないかと思います。これからの時代、高齢化してくると、車を使

えなくても生活できることが大事で、誰もが車に頼らずに行けるようなそういうまちの核を持つことが大事だと思います。男のまちづくりでベースができたので、これからは女性の目線も入られて、居心地のいい場所を作れば、多久の大事な顔になっていくでしょう。心のよりどころは必要で、そういう場所になりうる可能性を十分持っているので、中心施設の問題を含め、多久駅

周辺のまちが自分にとって楽しみの場と誇れる所にしていただきたいと思ひます。

渡會 多久のまちづくりを解く一つのキーワードかもしれない、みなさんがあまり耳慣れない「お父さんのまちづくり」、「お母さんのまちづくり」を掘り下げていただけますか。



■パネラー

ささがわともこ
笹川知子さん
(笹川工建(株)
ホームアドバイザー)